

件名	第3回湯梨浜町泊地域小さな拠点検討協議会記録
日時	2016年11月21日(月)18:30~20:00
場所	湯梨浜町中央公民館分館2階大会議室
出席者 (敬称略)	(委員10名) 朝日田 卓朗、石沼 友、山田 志伸、鷺野 星夫、田嶋 昭彦、遠藤 公章、渡邊 由佳、中原 政喜、石井 美佳代、坂田 克 (オブザーバー) ・区長10名 石脇区長 宮脇好美、泊1区長 小泉一義、泊2区長 岩本和雄、泊4区長 米村敏男、泊5区長 中尾輝夫、泊6区長 石原清弘、港区長 山口晃平、園区長 河田雄一、浜山区長 福田祐一、宇谷区長 谷岡一義 ・県中部総合事務所地域振興局 久保田係長 ・地域おこし協力隊 辺美礼 (事務局) 湯梨浜町役場みらい創造室 山根副町長、岩崎室長、谷岡主事

## 1. 開会

### 2. 会長あいさつ

どうすれば人口を増やせるのか、高齢者の方が今後も住み続けるにはどうするかについて、町から提案があるわけでもなく、我々が取り組むつもりで、仲間を作るつもりで実現に向けて検討したい。たまには厳しい意見もあるだろうし、突拍子もない話も出てくると思う。思い切って考えて、不足している部分についてはアドバイザーに相談するなどの方法もあるので、まずは一緒に検討していきたい。

### 3. 「誰(何)に対し、何をすればよいか」とりまとめ、方針決定

(事務局)スケジュールを会長と一緒に検討した。泊地域住民との懇談会では、住民の生の声を聞けるように、3月の住民説明会に向けて具体的な案を検討いただきたい。公共施設の活用も検討いただくことが協議会の目的のひとつなので再認識いただきたい。漁村センター、公民館、青少年の家、泊支所の利活用も検討いただきたい。

(委員)懇談会は今までもあったのか。

(会長)今まではなかった。懇談会では、委員が住民に対して説明を行う。

#### (1)人口増の戦略

##### ■産業分野

(会長)農業漁業希望者に対して何をすればいいのか。

(委員)漁業しようとした場合県の補助を受けられると思われるが、去年一昨年あたりに、それを活用していた人が途中で辞めてしまった。他の地域でも定着が難しく、県も選定に慎重になっている。誰でもいいという受け入れは難しいと思う。

(会長)辞めた理由は何か。

(委員)船酔いや、網漁が合わないなど。最長3年だが、年単位なので期限はなく、親方がゴーサインを出せば研修終了となる。当初はやる気があるのだが定着には結びつきにくい。研修に入る前に田舎暮らし体験を利用して、その時点で辞めるのであれば問題ないと思う。研修に入って辞めるとなると気持ち的にも残念だ。

(会長)泊で定着したのは2名か。

(委員)その通り。

(会長)農業をされている方もいる。

(委員)農業では、ある地区で1名継続されている。

(委員)農業法人に勤めなくてはならない。青年就農給付金は45歳未満の制限、年間300万円ほどの利益が条件。県としても収益になるものを求めている。

(会長)農業法人が湯梨浜町にもあるのか。

(事務局)湯梨浜町にも法人がある。農業大学校で研修を受ける制度もある。

(会長)制度を活用して泊に来てもらうにはどうすればいいか。

(委員)農地と家を整える必要がある。機械を買う場合の補助もある。

(委員)農業、漁業をしたい人は何を求めているのか。農業漁業の従事者が減っているという環境をクリアできることが前提だと思う。向こうがここに来たいと選んでくれる要素が何かを知る必要がある。全くの素人もいると思うが、土地、家を出すとんでも困ると思う。農業にしても色んな作物があり、方法がある。それを専門にしている人にしかわからないノウハウがある。それらをひっくるめて、どうアピールするのも重要。

(会長)漁業の場合にはノウハウや場所を教えると難しい。

(委員)漁業は獲ったもの勝ち。自分が移住したのは、とにかく田舎暮らしがしくて、県の事業の補助を受けていてたまたまその年が泊だった。実際住んでみてよかった。

(委員)JAや漁協でしか分からないこともあると思うので、こちらで考えても上手くいかない部分があると思う。

#### ■就職先を探す

(委員)ハローワークと同じになるかもしれないが、就職先をさらに情報発信、就労先の発掘が必要。

#### ■後継者探し

(委員)事業は上手くいっているが後継者が居ない場合、親族でなくても後継者を探してみてもいいのではないかと。空き店舗を活用して、マッチングを行う。平成23年に行政懇談会で倉吉のようなチャレンジショップを提案し、翌年から1年に限り家賃半額補助の制度を設けていただいた。現在事業をしているが、後継者を見つけてほしいという声もある。チャレンジショップは7~8件活用例があるが、人口が多い場所を希望されることもあるので、泊ではなかなか難しいかもしれない。

(会長)(後継者を探す場合)まずは、商売が上手くいっている所をさがさなくてはならない。

(委員)旧コンビニの場所を活用できればいいなと思う。

(会長)どのように活用するかを検討する必要がある。撤退したのにはそれに見合った理由がある。

(委員)出来ない理由よりできる理由を考える必要がある。市場が求めているものを探したい。風土や地域に合った商品を考えていかなければならない。

(会長)マーケティングのプロにアドバイスをいただくこともでてくるかもしれない。前向きに考えたい。

#### ■行政、事業主

(会長)6次産業への支援はあるのか。

(事務局)6次産業支援は町でもある。

(会長)陸上養殖も6次産業になると思う。

#### ■漁業施設

(委員)漁業機能と娯楽のための船舶所有者のためにマリーナ機能を分けてより多様なニーズに対応する。漁協が主になって管理をしているが矛盾が生じていると聞いている。商業として捉えてマリーナを運営することで活性化につながると思う。

(会長)船を預けている利用者に地元へお金を落としてもらう。船の管理を地元の方がするなども考えられる。

(委員)おそらく漁師は嫌う。無法地帯になりやすいことを懸念されると思うので、漁師、漁協は受入難しいのでは

ないか。

(委員)境港のマリーナは船をあげて、連絡すれば事前におろしてもらえる。

(会長)管理するお金をもらえばいい。漁協、漁師さんに分配できればいい。

(委員)所長等と相談が必要。

#### ■耕作放棄地の一般開放

(委員)近隣(倉吉市など)には土地がない人もいるので、ずっと管理するのも大変なので、住民と協同でできればwinwinになる。

(会長)北栄町でも前例あり。以前は泊でも家庭菜園をされていた。企業的に管理してまとまった菜園を作る。

(区長)私は農業をしたいと思わない。農業は生き物で中途半端ではできない。

(委員)難しいと思う。最初の話に戻るが、漁業も農業も生計を建てていこうとは難しい。農業は水が必要なので、水源がないと出来ない。

#### ■店舗

(委員)チャレンジショップをするにも単体であれば人が集りにくいので、複数で実施すればいいと思う。

色んな店や期間限定のものがあってもいい。チャレンジショップ的な町を作る。生産者の顔が見えるダイレクトセールをすることで集りやすいのではないか。

(委員)小さな拠点の中に公設民営で設置したい。泊の商工会議所も利用できていないので、活用を検討する必要がある。

(委員)いろいろなものが買える店がよい。

(委員)個性的なものであれば人が集るとは思うが、果たしてそれが泊住民にとって必要なのかは不明。

(区長)高齢者ドライバーの話が最近話題に取り上げられている。今後のことを考えれば、コミュニティ内に生鮮売り場があればいいと思う。協議会を通して補助金を出してもらうなどが運営するためには必要だと思う。今後はタッチパネルを活用して買うというシステムを導入している場所もあるし、これからはそうなると思う。

(区長)以前は生協があった(20年前)が、買い物に困っている人が多い。以前は鮮魚が移動販売で来ていたが、区でどうにかして欲しいと言う声もある。近場での買い物を希望される人も多い。

(会長)買い物に関しては今後も重点的に継続して話し合い、検討していきたい。

#### ■空家、空き地

(会長)相続を放棄したいと考えている人もいる。泊地域の老朽化した空き家を有償で買おうという人はいないと思う。

(委員)新築が建てられるような区画整備が必要なのではないか。空き家バンクに上がっているものでは魅力が少ない。(車が入れないなど。)

(事務局)今年度、建設水道課で空き家調査を実施した。危険家屋調査と一緒に進め、報告を受けたところ。今後所有者にアンケートをとる予定。

(会長)アンケートで無償でもいいなどの話があるかもしれないので、聞いていただきたい。

(委員)(古い空き家だと)リフォームはしたいと思う。土地を買うと土地代がかかり、住宅まで回せない。

(区長)そろそろ引越しも考えるが、泊は住み続けたいと思う場所ではない。店も無いし不便なため。どんな魅力があるかがなかなか出てこない。漁業、農業も盛んではない。外から来る人を重点的に考えていると思うが、どれだけ流出を防ぐかを考えることが必要。土地代を安く提供する、機械が入らない場所の解体に対して支援するシステムなどどこかでの支援が必要。泊は砂地であり、地盤改良があまり必要ないと聞いて

いるので、それをアピールすることが望ましいと思う。自分自身は泊から出る気はない。古民家再生のモデルルームを地元の大工に頼んで作ってもらえれば良いと思う。

(会長) 宅地の供給。土地の確保が必要だと思う。もう少し低コストで住めないかということ。

(委員) 自分のところでやった土地の分譲は全て埋まった。羽合のように区画を揃えて出さなくては応募がないのではないか。

(区長) 小学校周辺の土地分譲は、道路の問題で中止になった。泊で造成しようとするコストがかかる。

(区長) 浜山団地は持ち出しで、県でもっとも安かった。

(事務局) マイナスでも良いと言うわけではないが、需要があるので、政策としてたてている。

(区長) 長いスパンで見ただけならば、人口が増えてお店ができるなど考えられる。

#### ■住宅、造成

(会長) 若者世帯には新築したら補助があるが、泊特有の補助金の検討なども必要。

本日は、ここまで。次回は続きから再開する。

#### ■次回開催

12月13日(火)18:30～ 中央公民館泊分館 大会議室